### 名古屋大学博物館特別企画記録 草原の民モンゴリアン―伝統と現代社会の狭間で―

Ancient and Modern: Mongolia in photographs and calligraphy

東田 和弘(TSUKADA Kazuhiro)

名古屋大学博物館

The Nagoya University Museum, Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

会場:名古屋大学博物館

**会期:**2011年2月8日~3月5日

#### 1 はじめに

2011年2月8日~3月5日の間,名古屋大学博物館において「名古屋大学博物館特別企画 草原の民モンゴリアン―伝統と現代社会の狭間で― Ancient and Modern: Mongolia in photographs and calligraphy」を開催した(図1). 現代モンゴルを象徴する写真13点と,名古屋在住(当時)のモンゴル書道家Odontuya Byambaa 氏の作品と展示した. 以下にその概要を報告する.

#### 2 開催準備などについて

2011年9月より、モンゴル書道家のOdontuya Byambaa 氏、ロンドン自然史博物館のGiles Clarke 氏 と議論を重ね、以下のような「特別展アウトライン」を 確定した。議論は英語にて行い、また企画書も英語にて 作成した。



**図1** 草原の民モンゴリアン —伝統と現代 社会の狭間で— のポスター.

#### 名古屋大学博物館特別企画

[Ancient and Modern: Mongolia in photographs and calligraphy]

#### <Objective>

To create a temporary exhibition at Nagoya University Museum about life in Mongolia, opening in February 2011. The exhibition is to be simple in structure and elegant in style. It will feature aspects of life in Mongolia, both past and present, linked with the work of the Mongolian calligrapher (name?).

#### <Theme>

Mongolia is a country that is largely unknown in Japan, but which has a long and fascinating history of cultural traditions that have grown up in the country's unique range of landscape types. But Mongolia is also very much a country of the modern world where life is developing rapidly and people are adapting to the requirements of Mongolia's place on the international scene.

One of Mongolia's traditional artforms is calligraphy and a unique feature of this exhibition is the use of calligraphy created especially for the show which will be inspired by the images of Mongolia and its life that are the central feature of the gallery.

#### Exhibition components

The main part of the exhibition will consist of a series of 13 panels of identical size (1500  $\times$  1150 mm) and format. Each panel will carry, on the left side, a photographic image representing one aspect of life or landscape in Mongolia, each photograph being 1000 mm square. On the right hand side of every panel there will be a calligraphic scroll I000 mm tall and 300 mm wide. The wording of the calligraphy will be inspired by the image next to it and reflect on its topic. Both the photograph and the calligraphic scroll will have small text panels beneath them to caption the photograph and to translate the calligraphy into Japanese.

Following the same format, the exhibition will be introduced by a title panel explaining the nature of the exhibition, and will be completed by a panel explaining the work of Nagoya University in Mongolia and its ongoing relationship with the Mongolian National University. Both will carry calligraphic scrolls.

A last panel will carry a photograph of the calligrapher at work in her studio, again with a calligraphic scroll, and with a short text panel to give her name and a small amount of background information, the amount of text to match that on the other panels in the exhibition. The final component of the exhibition will be a small number of 3-D specimens representing aspects of Mongolian traditional culture. Each is to be selected for its ability to be a stand-alone specimen that needs minimal structure for its display. Each will need a small text panel.

#### <Topics for photographic display>

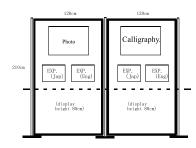
The 13 main photographs will be selected to represent aspects of four features of Mongolian life: nature, traditional culture, Nomadic life, modern life, and Japanese contribution to Mongolia. The selection should be made by Museum staff along with the calligrapher who needs to find inspiration for her calligraphy in the images chosen. The images are as follows:

- 1. Nature of Mongolia
  - (1) The Hangai Mountain Range: by Okhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech.
  - (2) Snowy Mountains: by Okhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech.
  - (3) The Gobi Desert: by Manchuk N., Mongolian Univ. Sci. Tech.
  - (4) Dinosaur Fossils: by Manchuk N., Mongolian Univ. Sci. Tech.
- 2. Traditional Culture
  - (5) Eriin Gurvan Naadam (Three Tests of Men's Skill): by Ganzorig L., Photographer
  - (6) Tsagaan Sar (Traditional New Year): by Ganzorig L., Photographer
  - (7) Tsagaan Sar (Traditional New Year): by H. Tanaka, Nagoya University Museum
- 3. Nomadic life
  - (8) Grazing Land: by Ganzorig L., Photographe
  - (9) Livestock: Milking Cows: by H. Tanaka, Nagoya University Museum
- 4. Modern Life
  - (10) Ulan Bator: by Gotsbayar R., Photographer

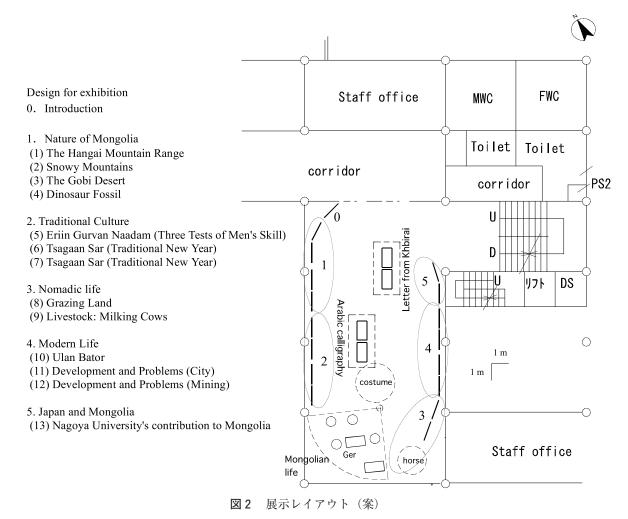
- (11) Development and Problems (City): by K. Tsukada, Nagoya University Museum
- (12) Development and Problems (Mining): by Okhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech.
- 5. Japan and Mongolia
  - (13) Nagoya University's contribution to Mongolia: by K. Tsukada, Nagoya University Museum

### Nagoya University Museum Special display Ancient and Modern: Mongolia in photographs and calligraphy

#### Example of each corners



The main part of the exhibition will consist of a series of 13 panels of identical size (1500 x 1150 mm) and format. Each panel will carry, on the left side, a photographic image representing one aspect of life or landscape in Mongolia, each photograph being 1000 mm square. On the right hand side of every panel there will be a calligraphic scroll I000 mm tall and 300 mm wide. The wording of the calligraphy will be inspired by the image next to it and reflect on its topic. Both the photograph and the calligraphic scroll will have small text panels beneath them to caption the photograph and to translate the calligraphy into Japanese. Following the same format, the exhibition will be introduced by a title panel explaining the nature of the exhibition, and will be completed by a panel explaining the work of Nagoya University in Mongolia and its ongoing relationship with the Mongolian National University. Both will carry calligraphic scrolls.



本展は、当博物館所蔵資料を中心に行うものではなく、展示資料を複数の個人より、借用しなければならない。資料借用の目処が付いた段階で、展示レイアウト案(図 2)を作成した。Odontuya Byambaa 氏には、各写真を見て感じたインスピレーションを書道作品として表現して貰い、写真と対比する形で展示を行った。また、日進市の川田敏章氏よりモンゴルの遊牧テント(ゲル)や、その他遊牧民の調度品・衣装等を借用し、モンゴルの旧正月(ツァガーン・サル)の様子を再現した。そのほか、モンゴル文字の形成に関して、中東から中央アジアへの文字の伝播について、特設展示を行った。

#### 3 特別企画の開催

本展は名古屋大学博物館での展示のほか、本部玄関ロビーにてサテライト展示を行った。また留学生や外国人来観者の増加が見込まれるため、日本語と英語にて解説パネルを作成した。当初計画していた「フビライ・ハーンからの鎌倉政府に宛てた国書(図1の"Letter from Khbirai")」については、入手が間に合わなかったため展示を中止した。以下、本展で展示した解説パネルに基づき、展示資料および展示コーナーの様子(図3)について説明・紹介する。文章表現については、展示解説に即した形でまとめた。

#### 展示と解説

#### 【イントロダクション】

草原の民モンゴリアン ---伝統と現代社会の狭間で---

# Ancient and Modern: Mongolia in photographs and calligraphy





図3 展示コーナーの様子 上:展示室全景,下:コーナー1「イントロダクション」付近

モンゴル人力士の活躍もあり、日本にとって「モンゴル」は身近な存在となりつつあります。しか し日本人は、本当のモンゴルをどれほど知っているでしょうか。モンゴル人は、日本人が予想もしな いような視点で日本を注視しています。

昔,ユーラシアの半分以上を凌駕した大モンゴル帝国が,東アジアで唯一征服できなかった国.それは日本です.彼らの大英雄「チンギスハーン」の一族さえ征服できなかった日本で,日本人をバタバタと倒しているモンゴル人がいる... 彼らにとって,モンゴル人力士の活躍は,痛快この上ないのではないでしょうか.

またモンゴルでは、近年の急激な開発により、環境破壊が深刻な問題となっています。過去に公害問題を克服しそしてさらに経済発展を遂げた日本は、彼らにとってミラクルの国でもあるのです。モンゴルのエルベグドルジ大統領が、昨年11月の訪日時に「日本にモンゴルの開発をして欲しい。特に日本の環境技術に期待する」と表明したことは、まだ記憶に新しいと思います。

彼らにとって「日本」は、近くて遠くて不思議で、そして憧憬の国なのです.

モンゴル人は、今でも草原での伝統的生活を守り続けている希少な民です。しかしこの国にもグローバリゼーションの波は押し寄せ、彼らは伝統と近代文明の間で必死に生きています。また、1990年代に社会主義から資本主義へ体制移行しましたが、急激な変革は、政治、経済、社会制度、環境、様々なところで歪みを生じさせました。

我々は、アジアの友として、彼らのために何ができるでしょうか.

本展では「草原の民」の伝統生活と近代化を紹介し、彼らの Mongolian mind を、書道家 Odontoya Bayambaa の書によって浮き彫りにします.

#### モンゴルってどんなところ?

皆さんは、モンゴル国がどこにあるかご存じでしょうか? 中国の内モンゴル自治区と混同されて、「中国の一部」と思っておられる方も多いのではないでしょうか.

モンゴル国は、中国とロシアの間にある、中央アジアの独立国です。内モンゴル自治区にもモンゴル文化を継承する人々がたくさん住んでいますが、政治的な理由により、この"モンゴル文化圏"の南半分は「内モンゴル自治区」として中国の領土となっています。

モンゴル国は日本の約3倍の国土がありますが、人口は名古屋市より少し多い程度です。首都のウランバートルには約100万人が住んでおり、全人口の半分ほどは、今でも遊牧生活を営んでいます。しかし遊牧民の生活は昔と全く同じというわけではありません。現在ではソーラーパネルで自家発電し、パラボラアンテナで衛星放送を楽しんでいる遊牧民も多くいます。もしモンゴルで遊牧民に会うことがあったら、「名古屋を知っているか?」と訊いてみてください。たぶん「名古屋って、あの"名古屋場所"をやっているところだろ?」という答えが帰ってくるに違いありません。モンゴル人力士の活躍を見るために、NHKのBS放送を楽しみにしている遊牧民も数多くいるのです。

国家名称:モンゴル国

公用語:モンゴル語

首都:ウランバートル

面積:1.565.000km²(世界第18位)

人口(2008年): 2,671,000人

人口密度:2人/km²(日本は337人/km²)

通貨:トゥグルグ

日本との時差:1時間

歴史:モンゴル国は、モンゴル語で「モンゴル・オルス」. "モンゴル民族の国"という意味. モンゴル民族のアイデンティティー形成は、チンギス・ハーンのモンゴル帝国時代にさかのぼる.

オドントヤー ビャンバ(Odontuya Byambaa)プロフィール

モンゴル国 イフザサグ大学 文学部 書道科講師

専門:文化人類学(モンゴル民俗・文化), 言語学(モンゴル語)

2008 年 10 月~ 2010 年 3 月 夫の名古屋大学留学に伴い名古屋滞在. 父はモンゴル詩歌(ユロル)のプロ.

#### 【受賞】

- 1999年 モンゴル書道大統領杯 全国大会特別賞
- 2000年 モンゴル書道大統領杯 全国大会三位入賞
- 2002年 モンゴル書道大統領杯 全国大会二位入賞
- 2005年 モンゴル書道大統領杯 全国大会優勝

#### 【個展】

- 2003年 Mongolian script in a view of great sense, ウランバートル
- 2006 年 Secret History of Mongolia (モンゴル秘史), ウランバートル
- 2009 年 Exhibition of Mongolian traditional calligraphy,名古屋(伏見)
- 2010年 モンゴル書道展,名古屋(栄)

#### 【著書】

- 2000年 The look for Mongolian nice script
- 2009年 Mongolian script, famous blessing poet Urjinhand

#### 【写真と書道】

#### 1. モンゴルの自然

「ハンガイ山地」 Photo by Ukhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech. .

モンゴルの自然は豊かだ.北部には針葉樹林帯が広がり、南部は砂塵と岩石からなる、荒涼とした 不毛地帯だ.

中部では、なだらかな山々が緑のベールをまとう。初夏には、草原で家畜が草を食み、山裾で花が咲き乱れる。

初夏の中部モンゴルは、地球上で、最も時間が遅く流れる場所かも知れない。

#### 「雪山」 Photo by Ukhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech. .

モンゴルの冬は寒い. 今年の冬は、首都ウランバートルでさえ、マイナス 40 度を下回った. 外に 出た瞬間にまつげが凍って目が開けられず、露出した肌は凍傷になる.

それでもみんな,必死に生きている.

#### 「砂嵐」 Photo by Onon G., Mongolian Univ. Sci. Tech.

モンゴルの春は風が強い. ゴビでは風が砂を巻き上げ、強烈な砂嵐となる. 自然の引き起こす現象のスケールは、我々の想像をいとも簡単に超えてしまう. 自然は偉大だ.

#### 「ゴビ砂漠」 Photo by Manchuk N., Mongolian Univ. Sci. Tech.

モンゴル語で"ゴビ"とは、石ころがゴロゴロある砂漠のことだ。ここでは荒涼とした、空っぽの空間がどこまでも広がる。まるで子供の頃に映画で見た、異星の光景のようだ。しかし、ここは決して不毛地帯ではない。

地下には莫大な量の鉱物資源が存在し、世界中が食指を蠢かしている.

#### 「恐竜化石」 Photo by Manchuk N., Mongolian Univ. Sci. Tech.

砂漠の下に眠っているのは、資源だけじゃない。ゴビは恐竜化石の産地としても有名だ。この一

見,不毛の地にも,恐竜はじめ様々な生物が闊歩する,地上の楽園の時代があった. ゴビには,ロマンを求め世界中から研究者が訪れる.

#### 2, モンゴルの伝統文化

「エリーン・ゴルヴァン・ナーダム(男の3つの技比べ)」 Photo by Gotsbayar R., Photographer 短くナーダムとも呼ばれる。写真の相撲の他、競馬、弓が行われる。モンゴル相撲は土俵がなく、頭、背中、ひじ、ひざ、尻のいずれかが先に地面に着いた方が負けである。土俵がないため、一つの取り組みに数時間を要することもある。

#### 「ツァガーン・サル 1 (旧正月)」 Photo by Ganzorig L., Photographer

ツァガーン・サルは時輪暦(インド・チベット起源の暦)による正月で、モンゴルで盛大に祝われる伝統行事の一つである。昔は、正月に1歳年を重ねることになっていた。写真では、民族衣装のデールを着、帽子をかぶって正装した若者と老人が新年のあいさつを交わしている。双方ともハダック(儀礼用の絹布で、青、白、黄が基本の色)を捧げ持ち、年少者が年長者の両腕を下から支えるようにして自分の両腕を差し入れ、「アマル・バイノー(平安でしょうか=お元気でしょうか)?」と訊ねると老人が「メンデー(元気だよ)。チー・アマル・バイノー(お前さんは元気かい?)と訊ね返す。旧正月は春の訪れを告げる行事でもあるので、「家畜は太って元気に冬を越せたかね?」と重ねて訊ねることもある。傍の食卓には正月の食べ物であるヘヴィーン・ボーヴ(小麦粉で作り、油で揚げた楕円形の菓子)を何段も重ね、硬質チーズや飴などで飾ったものと、ブヘル・マハ(ヒツジの丸茹で肉)などが見える。

「ツァガーン・サル2 (旧正月)」 Photo by H. Tanaka, Nagoya University Museum ある一家が親戚の若者も交え、家族で正月を祝っているようす.

#### 3. モンゴルの牧畜文化

#### 「放牧地」 Photo by Ganzorig L., Photographer

モンゴルではヒツジ,ヤギ,ウシ,ウマ,ラクダの5種の家畜を飼い,放牧する.ただし,主に気候や植生などによる家畜の分布差があり、ヒツジはいずれの地域でもあまり差がないが、乾燥しているゴビ地域ではヤギとラクダが、純ステップの草原ではウシ、ウマが多く、山岳森林地帯ではウマ、ウシに加え、高度の高いところでヤク(毛の長いウシの一種)を飼っていることが本来は多かった。しかしヤギに関してはカシミヤが高値になることから、市場経済化以後全国的に頭数が増え、過放牧による牧草地の荒廃が問題になっている。

ヒッジはおとなしくて臆病で、集団性にも乏しいが、ヤギは行動が積極的で指導性に優れているので、写真のようにヒッジ群の中にヤギを10 - 20%程度まぜて一緒に放牧されることが多い。

#### 「ウシの搾乳」 Photo by H. Tanaka, Nagoya University Museum

搾乳は現在では女性の仕事である.搾乳たけなわの季節には、ウシの場合、朝の放牧前に一度、夕 方放牧地から帰ってきた直後に一度搾乳する.この間、仔牛が母畜の乳を飲んでしまわないように、 囲いに入れる時も放牧中も別にしてある.背後に仔牛だけの囲いが見えるのはこのためである.搾乳 は、写真のように後ろ脚を縛り、仔牛を近づけて少しだけ乳を吸わせ、素早く引き離した後行われる.

#### 4. モンゴルの現代社会

#### 「ウランバートル」 Photo by Gotsbayar R., Photographer

モンゴルにも近代化の波は押し寄せている。街にはファッションビルが建ち並び、道では日本車が 渋滞を引き起こし、携帯電話は都市生活の必須アイテムだ。ブルースカイタワーはその象徴として、 首都中心にそびえ立つ。

ウランバートルで生まれ育った "UBっ子"のなかには、遊牧文化を知らない者もいるという.

#### 「発展(都市)」 Photo by K. Tsukada, Nagoya University Museum

ウランバートルには国民の半数以上が住んでいる. UB 郊外では、地方からの移住者が定住し、暖房・炊事の有毒煙が UB 中心部に滞留する. 煙害は市民の健康にとって深刻だ. たった 1km ほどの距離なのに、煙のためブルースカイタワーがまったく見えない. 発展の光と陰だ.

#### 「発展(鉱業)」 Photo by Ukhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech. .

モンゴルは鉱物資源の宝庫だ.外貨獲得の手段として,鉱物資源の開発が急ピッチで進む.国民の 生活向上は大事だし,そのために経済発展は必要不可欠だ.しかし,開発と環境破壊は常に表裏一体 だ.

自然の宝庫 "モンゴル"を守るため、名古屋大学のチームは法律を作る手助けをし、また鉱山地域の環境調査を進めている。

#### 5. モンゴルと日本の関わり

#### 「モンゴルと名古屋大学 |

名古屋大学は1993年よりモンゴルと交流を深め、モンゴルの法整備や、地質学・環境学の調査と教育を支援するため、2006年にモンゴル国立大学内に「名古屋大学 日本法教育研究センター」を、2009年にはモンゴル科学技術大学内に「名古屋大学 フィールドリサーチセンター」を設置しました。モンゴルに文・理両方の拠点があるのは、名古屋大学だけです。

両センターは「よりよいモンゴル,よりよい日蒙パートナーシップ」をつくるために、連携して研究・教育を行っています.

#### <名古屋大学 日本法教育研究センター>

名古屋大学は、モンゴルの次世代の法改革の担い手を養成するために、モンゴル国立大学法学部内に「名古屋大学日本法教育研究センター」を設置しています。センターには名古屋大学の教員2名が常駐しており、5学年で合計70名の学生に日本語と日本法を教えています。

#### <名古屋大学 フィールドリサーチセンター>

モンゴルにおける日本のフィールド調査を支援するために、名古屋大学は、モンゴル科学技術大学内に「名古屋大学 フィールドリサーチセンター」を設置しています。センターにはフィールド調査に必要な道具のほかに、電子顕微鏡や X 線分析機、岩石加工用の機器があり、日本とモンゴルの研究者に広く活用されています。また名古屋大学教員による、モンゴル人学生への教育も活発に行っています。

#### 特設展示【文字の伝播】

#### 「文字の伝播 |

チンギスハーンによるモンゴル帝国建国後、ウイグル文字をとりいれてモンゴル文字が作られました。左横書きのウイグル文字を 90 度回転させて、モンゴルでは左縦書きに改めたところに特色があります。

モンゴル文字のもとになったウイグル文字のルーツは,西アジアで発達したシリア系文字です.シリア文字を生んだフェニキア文字は,一方でアルファベット化し,ギリシャ文字に発展しました.ギリシャ文字のアルファベットからは,ラテン文字(ローマ字)とキリル文字(ロシア文字)が生まれました.

モンゴルでは1946年以降ソビエト連邦の影響により、キリル文字が日常で使用されていますが、1990年の民主化以降にはモンゴル文字も再び使われるようになってきました。また、モンゴル帝国時代には、チベット文字を改良したパスパ文字も使われました。

モンゴル文字は単語を縦に続けて書き、個々の文字は語頭・語中・語尾で形が異なります.この特徴は、横書きのアラビア文字などと共通しています.

#### 「さまざまな「書」のかたち」

「書」は、文字を素材とする造形芸術です。しかし、大きく分けて西洋と東洋ではその形に大きな違いがあります。キリスト教世界では聖書を、イスラーム世界ではクルアーンを美しく残すために様々な書体が考案されました。その結果、西洋や中東では、ペンを用いた幾何学的で装飾的なカリグラフィーが好まれました。

一方,東洋では写経のための道具として,紙に墨を使って筆で書く毛筆が普及しました.日本や中国の現代書道では,文字の持つ意味と美しさに加えて精神性や人間美までもが表現の対象になっています.

西方由来の文字を東洋の毛筆で表現するモンゴル書道は,まさに東西文化の交差点ならではの芸術 と言えます.

#### 「モンゴル文字、キリル文字/

文字は、民族の歴史と文化を表すと言われます. しかし、モンゴル国では現在モンゴル文字ではなく、キリル文字が主に使われています.

モンゴル文字は約1000年の歴史を持つとも言われ、遠い過去から現代まで、民族の文化と誇りを語り継ぐ"道具"としての役割を果たしてきました。したがってモンゴル文字は現代モンゴル人のアイデンティティのよりどころであるとともに、後世に継承するべき永続的な財産です。

モンゴル国では、もともとモンゴル文字が公用文字でした。しかし 1941 年、旧ソ連の政治的影響によりキリル文字が公用文字に制定され、それ以降モンゴル国民は、モンゴル文字を公的な場で使用することができなくなりました。このことはモンゴル国民が、政治によって、伝統文化から切り離されてしまった事件ともいえます。

モンゴル文字は、モンゴル語の音声を適切に表すために作られた文字です。これに対しキリル文字は、もともとは他文化の文字ですので、モンゴル語の音声を正確に表すには不十分です。キリル文字で教育を受けた、より若い世代のモンゴル語の発音がぎこちなくなったのはこのためだといわれています。

しかし 1990 年以降, モンゴル国でも民主化の流れがおこり, 国民はそれまで縛られていた旧体制から徐々に解放されていきました. それとともにモンゴル文字を復活させる運動が起こり, 1990 年代初頭から小学生に対しモンゴル文字の授業を行うようになりました.

モンゴル文字には、以下のような特徴があります。

- 1. 芸術の一分野として、「おりたたみ式書体」〔日本語の角字と類似の、文字を正方形に紋様化した字体〕と書道とが発展した。
- 2. 縦書であり、非常に早く(草書体の場合1分間に100から120語)書くことができる.
- 3. 日本のカタカナのような文字(ガリッグ文字)があるので、外国語を表すのに便利である.

モンゴル文字は、文化の継承具として長年にわたって発展・変化してきました。モンゴル人は歴史の中で数種類の文字を使用してきましたが、モンゴル文字がモンゴル語に最もよく適合した文字であることは間違いありません。モンゴル文字は、制限された時期もありましたが、歴史の中で滅ぶこともなく、膝を屈せず「立って」〔縦書のままで〕残ってきた、モンゴル人の誇りそのものだといえます。

モンゴル書道家 オドントヤ ビャンバ

### 「モンゴル遊牧民のテント"ゲル"」 川田敏章氏 蔵(図4)

これは、モンゴルで実際に使われていた遊牧民の移動式テント「ゲル」と調度品です。モンゴルの伝統文化は、ゲルでの生活に集約されます。ゲルは木製の枠組みに、フェルトをかぶせて作ります。ドアは必ず南を向いており、正面(北側)に祭壇があります。基本的には、入って左側が男性の場所、右側が女性の場所です。中央にはストーブがあり、ここで煮炊きをします。



図4 モンゴル遊牧民のテント"ゲル"の展示.

ここでは、ゲルでの正月(旧正

月:ツァガーン・サル)の様子を再現しました。ツァガーン・サルは、夏期のナーダムとならぶ、モンゴル最大の祝日です。たくさんのブーズ(モンゴル式蒸し餃子)とブヘル・マハ(羊の丸ゆで肉)を用意し、モンゴルの伝統衣装(デール)で正装して来客をもてなします。お年賀の客が来ると、お互いに「アマル バイノー?」と挨拶し、シミン・アルヒ(牛乳酒)を酌み交わしながら食事を楽しみます。おせち料理で客をもてなす、日本の"年始回り"ととてもよく似ていますね。最近はシミン・アルヒではなく、アルヒ(モンゴルウォッカ)を楽しむ事も多いようです。ゲルの左奥の男性は、中空で右の薬指を弾いています。アルヒは神聖な飲み物とされています。飲む前には、自然の神様に対するお供えとして、右手薬指にアルヒを少し浸して中空で弾きます。

男性は年始の挨拶として、嗅ぎタバコを交換します。お互いに「いいタバコですね」と挨拶するの

が習わしとなっています. テーブルにあるのは, ヘヴィーン・ボーヴ (練った小麦粉を揚げたクッキー)です. ツァガーン・サルに欠かせない縁起物です.

〈英文解説〉

#### Display and explanation

#### <Introduction>

#### Ancient and Modern: Mongolia in photographs and calligraphy

Mongolia's profile in Japan has risen in recent years due to the success of a number of Mongolian sumo wrestlers, but how well do Japanese people really know Mongolia? Mongolians take an interest in Japan in a way that many Japanese people might find surprising.

The great Mongol Empire once covered more than half of Eurasia, but there was one country in East Asia it couldn't conquer – Japan. The clan of the great Mongolian hero Genghis Khan was unable to claim victory over Japan, but that country is now home to Mongolians who have defeated a series of top Japanese wrestlers.

In recent years, Mongolia has been under threat of grave environmental damage due to its rapid development. Japan, which has tackled environmental problems in the past while seeing further economic success, is held in very high regard in Mongolia. Last November, Mongolian President Elbegdorj visited Japan and said that he wants Japan to play a role in developing Mongolia and has high hopes for following Japan's lead in the use of environmental technologies. For Mongolians, Japan is a mysterious country, both near yet far, and a nation they aspire to emulate.

Mongolians are a rare people who treasure their traditional nomadic steppe lifestyle. However, the specter of globalization looms over the country, and they now find themselves between the two poles of tradition and Westernization. In the 1990s, Mongolia switched from socialism to capitalism, but the rapid reform that this has meant has placed a strain on the country's government, economy, social structure, environment and more.

What can we, as fellow Asians, do for Mongolia?

This exhibition presents the traditional lifestyles of these people of the Steppes and highlights the modernization their culture is undergoing through the works of calligrapher Odontoya Bayamba.

#### <Photographs and Calligraphy>

#### 1. Nature of Mongolia

The Hangai Mountain Range Photo by Okhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech.

Mongolia is blessed with a rich natural environment. Coniferous forests spread throughout its northern part, while the south is a desolate, barren wilderness of rocks and dust. Across its center lie gentle mountains, garbed in a veil of green. In early summer, livestock graze on the plains, and flowers grow in the mountain lowlands. Early in the summer, time may move more slowly in central Mongolia than anywhere else on Earth.

#### Snowy Mountains Photo by Okhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech.

The Mongolian winter is cold. Temperatures fell below  $-40^{\circ}$ C even in the capital, Ulan Bator, this winter. Simply stepping outside is enough to instantly freeze your eyelash shut, and any exposed skin is at risk of frostbite. Despite these conditions, people soldier on with their lives.

#### **Sandstorms** Photo by Onon G., Mongolian Univ. Sci. Tech.

Strong winds sweep Mongolia in the spring, blowing up the sands of the Gobi and creating

massive sandstorms. The scale of this natural phenomenon far exceeds the limits of our imagination.

#### The Gobi Desert Photo by Manchuk N., Mongolian Univ. Sci. Tech.

*Gobi* is a Mongolian word meaning "desert strewn with rocks." This desolate, empty space seems to stretch on forever. It looks perhaps like an alien landscape from a children's movie, but in fact it is far from being a wasteland; the world is itching to get its hands on the abundant mineral resources that lie below its surface.

#### **Dinosaur Fossils** Photo by Manchuk N., Mongolian Univ. Sci. Tech.

Minerals are not the only things that lie beneath the Gobi Desert; it is also a globally renowned dinosaur fossil site. This apparently lifeless area was once a paradise teeming with dinosaurs and other animals. Researchers from around the world find themselves drawn to the Gobi Desert.

#### 2. Traditional Culture

#### Eriin Gurvan Naadam (Three Tests of Men's Skill) Photo by Ganzorig L., Photographer

This is also called Naadam for short. In addition to the sumo activities shown in the photo, the competition also includes horse riding and archery. Mongolian sumo does not feature a wrestling ring. Victory is decided when a wrestler's head, back, elbow, knee or bottom touch the ground. As there is no ring, matches can last for hours.

#### Tsagaan Sar (Traditional New Year) Photo by Ganzorig L., Photographer

The timing of Mongolian New Year, Tsagaan Sar, is determined by the Kālacakra calendar which originated in India and Tibet, and is one of the country's major traditional events. In the past, Mongolians considered that they became a year older on New Year's Day. This photo shows a youth dressed formally in a tribal *deel* and hat exchanging New Year's greetings with an elderly man. Both are holding up ceremonial blue, white and yellow silk *batik* fabrics with the youth putting out his arms to support those of his elder. The young man asks, "Amaru baina uu?" (Are you at peace? = How are you), and the elder answers, "Mende" (I'm fine). "Chi amaru baina uu?" (How are you?). The traditional New Year was also an occasion to herald the coming of spring, so some would also ask, "Were your livestock plump and able to withstand the winter well?" On the table beside them is a New Year'delicacy called hevin bov (oval-shaped pastries made from flour and deep-fried in oil) stacked several layers high and decorated with hard cheese, candies and the like, and buheru maha (whole boiled sheep).

## **Tsagaan Sar (Traditional New Year)** Photo by H. Tanaka, Nagoya University Museum A family celebrates the New Year with younger relatives.

#### 3. Nomadic life

#### **Grazing Land** Photo by Ganzorig L., Photographer

Mongolian shepherds tend five types of livestock: sheep, goats, cows, horses and camels. Herd numbers vary based primarily on climate, vegetation and other factors. Sheep are to be found across the whole of Mongolia, even in the dry Gobi area where they and camels have traditionally been the livestock of choice. Conversely, horses and cows are better suited to the grasslands of the Steppes. In mountain forests, cows, horses and yaks, a type of long-haired cow suited to life at

high altitudes, have been popular. However, the high price of cashmere has driven up the demand for sheep, resulting in a growing sheep population across the nation since its conversion to a market economy as well as the rise of environmental devastation due to overgrazing.

Sheep are quiet, timid and not prone to herding, but goats are more active and good at leading, so – as seen in the picture here – so grazing herds of sheep often include 10 to 20% of goats.

#### Livestock: Milking Cows Photo by H. Tanaka, Nagoya University Museum

Milking cows in Mongolia is today considered a job for women. At the height of the milking season, cows are milked before being sent out to graze in the morning and again after coming back in the evening. To keep calves from drinking their mother's milk in the meantime, they are kept separate, both when grazing and when stabled. This is why an enclosure containing only calves can be seen in the background. As the picture shows, milking is performed by binding the rear legs, bringing the calf close to drink a small amount, then swiftly pulling the calf away and extracting the milk in its place.

#### 4. Modern Life

#### Ulan Bator Photo by Gotsbayar R., Photographer

Today's tide of modernization is also washing over Mongolia; fashionable buildings line city streets on which traffic is brought to a standstill by the abundance of Japanese cars. Mobile phones are essential for urban living, and the Blue Sky Tower – a symbol of this modernity – rises from the center of the city. Some people born and raised in Ulan Bator are entirely unfamiliar with Mongolian nomadic culture.

#### Development and Problems (City) Photo by K. Tsukada, Nagoya University Museum

Over half of Mongolia's population resides in Ulan Bator. Its suburbs are home to migrants from distant regions, and noxious smoke from fires for heating and cooking hangs over the center of the city. Air pollution caused by smoke presents a serious threat to Ulan Bator's residents. The Blue Sky Tower, just a kilometer away, sometimes disappears from view due to the smoke. This is the light and dark of development.

#### **Development and Problems (Mining)** Photo by Okhonaa G., Mongolian Univ. Sci. Tech.

Mongolia is a treasure trove of mineral resources, whose development is being promoted at a rapid pace to secure foreign currency. Improving the lives of the Mongolian people is important, and economic development is an essential part of this goal. However, development and environmental destruction are opposite sides of the same coin. In order to protect the natural treasure that is Mongolia, a Nagoya University research team is carrying out environmental surveys in mining regions of the country.

#### <Other display>

#### The Spread of Writing

After the establishment of the Mongolian Empire by Genghis Khan, the Mongolian script was created based on the Uyghur alphabet. The horizontally written Uyghur script was rotated 90 degrees, to give a Mongolian scripts that is written in vertical columns read from left to right. The roots of the Uyghur script that served as the foundation of Mongolian writing lie in the Syrian script developed in western Asia. The Phoenician script, which was the forefather of the Syrian script, became alphabetized and developed into the Greek script. The Greek alphabet

further gave rise to the Latin and Cyrillic alphabets.

Due to the influence of the USSR, from 1946 onward the Cyrillic alphabet became commonly used in Mongolia, but with the change to democracy in 1990, the Mongolian script came back into use. During the Mongolian imperial era, the 'Phags-pa script (a modification of the Tibetan script) was used.

In Mongolian script, words are written vertically and the shapes of the letters differ depending on whether characters fall at the start, in the middle or at the end of a word. This characteristic is shared with the horizontally written Arabic script.

#### **Different Calligraphy Types**

Calligraphy is a creative art that uses letters as its basis. However, forms of calligraphy in Eastern and Western cultures are very different. In the Christian and Muslim world, many diverse script forms were created in order to reflect the beauty of the Bible or the Koran. As a result, in the West and the Middle East, pen-based, geometrical and decorative calligraphy has been favored.

In the East, calligraphy was used as a tool for copying sutras, and writing with black ink on paper was prevalent. In modern Japanese and Chinese calligraphy, the calligrapher must express not only the meaning and beauty of the characters, but also spirit and human beauty.

Mongolian calligraphy, which uses Eastern-style brushwork, although with a script derived from the West, is a perfect example of an art form that stands at the crossroads of East and West.

#### The Mongolian and Cyrillic Alphabets

It is said that scripts encapsulate the histories and culture of a people. However, the script used in Mongolia today is not primarily the Mongolian alphabet, but the Cyrillic one.

Mongolian people are proud of their unique alphabet which has a thousand year history. However, in 1941, under the influence of the Soviet Union, the Cyrillic alphabet was established as the official script and Mongolian people were not able to use their native alphabet in the public arena. While the Mongolian alphabet was developed to express the sounds of the Mongolian language, the Cyrillic alphabet is an alien script and does not express Mongolian sounds accurately. However, with the rise of democracy in Mongolia, there has been a move to restore the Mongolian alphabet, which has been taught in elementary schools since the early 1990s.

The Mongolian alphabet has the following characteristics:

- 1. Its collapsed script (a stylized, squared form of letters similar to Japanese kakuji) and calligraphy are highly developed art forms.
- 2. It is rendered vertically, and can be written extremely quickly (in cursive, 100 to 120 words can be written per minute).
- 3. It includes the Galik script, which is useful for writing foreign words (in the same way as Japan's *katakana*).

The Mongolian alphabet has developed and changed over many years as a tool for carrying on Mongolian culture. Mongolians have used many different scripts over the course of their nation's history, but there is no doubt that the Mongolian alphabet is the best suited to the Mongolian language. There was a time when its use was restricted, but it survived throughout history, standing unbowed (vertically) as an embodiment of Mongolian pride.

Odontya Byanba (Mongolian calligrapher)

#### Mongolian nomadic tent: Ger Owned by T. kawata (Fig. 4)

This is a *Ger* – a type of portable tent used by the country's nomads, and their traditional furniture. Traditional Mongolian culture is centered around the *ger*. *Ger* have a wooden framework covered with felt. Their door always faces south, and they include a ceremonial altar at the front (on the north side). As a rule, the area on the left upon entering a *ger* is used by men, and the right side is used by women. In the center is a stove for preparing meals.

This is a reproduction of a New Year celebration (the traditional New Year is called *Tsagaan Sar*) in a *ger. Tsagaan Sar*, along with the summer *Naadam* Festival, is one of Mongolia's main events. *Buuz* (Mongolian steamed dumplings) and *buher maha* (boiled goat) are prepared and served to guests by hosts dressed in traditional Mongolian *deel*. When guests come to deliver New Year's greetings, they are welcomed with the phrase "*Amaru baina uu*?" and enjoy dinner with their hosts over cups of *shimin aruhi* (fermented milk). This is similar to Japan's tradition of New Year visits, where guests are served *osechi*-style dishes. In recent years, people have also often come to drink *aruhi* (Mongolian vodka) instead of *shimin aruhi*. The man on the left inner of the *ger* is flicking his right ring finger in the air. *Aruhi* is considered a sacred drink. Before imbibing, people dip the right ring finger in it and flick it in the air as an offering to the gods of nature.

Men exchange snuff tobacco as a New Year greeting. It is customary for them to say, "That's good tobacco." On the table are *hevin bov* (fried cookies made from kneaded flour). These are considered a lucky food, and are an essential part of *Tsagaan Sar*.

#### サテライト展示

名古屋大学本部2号館玄関ロビーにおいて、サテライト展示を行った。ここでは、モンゴル産ホタル石を展示し、モンゴルの鉱物資源と名古屋大学フィールドリサーチセンターについての解説を行った。

#### 「モンゴル鉱物資源と名大フィールドリサーチセンター|

モンゴルは鉱物資源の宝庫です.資源需要が高まる中、モンゴルの資源を世界中が狙っています. この標本はモンゴル科学技術大学地質博物館から、名古屋大学博物館に寄贈されたホタル石です.モンゴルのホタル石生産量は世界第4位で、主要産出国となっています.

名古屋大学は博物館が中心となって、2009年に、モンゴル科学技術大学内に「名古屋大学フィールドリサーチセンター (FRC)」を設立しました。FRC はモンゴル国内における地質・環境調査と、教育支援を行っています。

#### 展示解説

「ホタル石 (Fluorite) | 名古屋大学博物館 蔵

産 地:モンゴル,フブスグル県,ブジガール山 (Bujgar uul)

寄贈者:モンゴル科学技術大学 地質博物館

ホタル石は加熱すると光るため、この名前が付けられました。ホタル石はカルシウムとフッ素が結びついた鉱物( $CaF_2$ )で、濃硫酸に入れて加熱するとフッ化水素(HF)を生じます。フッ素を英語で「fluorine」というのは、フッ素がホタル石から発見された元素だからです。

モンゴルは、世界第4位のホタル石産出国です。ホタル石は様々なフッ素化合物の原料や、製鉄の際の融剤として使われます。またホタル石は、紫外線から赤外線まで非常に幅広い波長の光を通すため、望遠鏡やカメラのレンズとしても用いられています。現在日本は、国内で消費する高品位ホタル石の約90%を中国からの輸入に頼っています。

#### 関連イベント

会期中,以下の関連イベントなどを実施した.

「NUMCo モンゴル民俗音楽と伝統舞踊|

場所:博物館2階展示室

日時: 2月18日 14:00~15:00

奏者: A. バトエルデネ (馬頭琴), B. ボルドエルデン (ホーミー), D. オランゴー (ダンス)

演目:馬頭琴(奏者:バトエルデネ)

1. 果てしなき草原、2. ラクダの歩み、3. メロディー、4. 馬蹄のとどろき

舞踊 (奏者:ガナー,バトエルデネ (馬頭琴による伴奏))

5. バヤド族の踊り、6. ホトン族の踊り

ホーミー (喉歌) (奏者:ボルドエルデネ,バトエルデネ (馬頭琴による伴奏))

7. ホーミー4種, 8. チンギス・ハーンの賛歌, 9.5人のカザフ人,

10. オルティン・ドー (エルデネ・ザサグの仔馬)

「モンゴル書道家 オドントヤー・ビャンバーによるギャラリートーク」(図5)

場所:博物館3階展示室

日時:2月19日 14:00~15:00

内容:オドントヤー・ビャンバー氏が、モンゴルの伝統生活と現代社会を紹介。

「モンゴル書道家 オドントヤー・ビャンバーによるモンゴル書道(硬筆)教室」(図6)

場所:博物館講義室

日時: 2月19日 15:15~16:00

定員:20名

#### 「名古屋大学特別講演会|

場所:名古屋大学野依記念学術交流館

日時:2011年2月28日(月)15:00~16:45

演題:「モンゴルから見た日本、日本から見たモンゴル―よりよいパートナーシップ構築のために―」

講師:駐モンゴル 城所 卓雄日本国特命全権大使

趣旨: 近年,鉱物資源開発で世界的な注目を集めている「草原の国」モンゴル は,厳しい自然環境,わずかな人口,大国に囲まれた内陸国といったハンディを背負いながらも 100 年にわたって独立を守り抜き,冷戦の終結にあたっては市民・学生による民主化運動により無血の民主化を遂げるとともに,「非核地帯化宣言」に代表される自主独立の外交を展開するなど,激動する東アジアにあって独自の存在感を誇っています.

モンゴルは、日本を「第三の隣国」と位置づけて重視するとともに、昨年 11 月には「『戦略的パートナーシップ』構築に向けた日本・モンゴル共同声明」を発表するなど、日本にとって極めて重要な国となりつつあります。

名古屋大学は、モンゴルの大学・研究機関との学術交流を 20 年近く積み重ねてきましたが、 近年ではモンゴル国立大学法学部に「名古屋大学日本法教育研究センター」を、モンゴル国立 科学技術大学に「名古屋大学フィールドリサーチセンター」を設置し、また医学研究科がモン



るギャラリートーク」の様子.



図5「モンゴル書道家 オドントヤー・ビャンバーによ 図6「モンゴル書道家 オドントヤー・ビャンバーによ るモンゴル書道 (硬筆) 教室」の様子. モンゴル 民族衣装を着て説明をしているのが, Odontuya Byambaa 氏.

ゴル国立健康科学大学と学術交流協定を締結するなど、その協力関係はさらに緊密になりつつ あります.

このたび、名古屋大学では、城所卓雄・駐モンゴル日本国特命全権大使をお迎えし、独立宣 言 100 周年を迎えるモンゴルの政治・経済の状況,モンゴルを取り巻く国際関係,日本とモン ゴルの学術・教育交流のあり方などについてご講演頂くことにより、名古屋大学をはじめとす る日本の研究教育機関や企業・市民がモンゴルとどのように関わるべきかを再考し、示唆を得 る機会にしたいと考えます.

#### 5 謝 辞

ロンドン自然史博物館の Giles Clarke 氏とモンゴル科学技術大学の Manchuk Nuramkhaan 氏に は、本展企画について様々な助言・指導をいただいた。モンゴル書道家 Odontuya Byambaa 氏には 作品を出展していただき、また本展企画に際し議論をいただいた. 川田敏章氏には、モンゴル遊牧テ ントほか多数の展示品をお借りした。名古屋大学留学生はじめ、在名の多くのモンゴル人の方々に展 示設営を手伝っていただいた. 以上の方々に、心より御礼申し上げる次第である.

(2011年10月15日受付)